

アルミ製建設用電線

今期生産量4倍に拡大

アルミ導体を用いて、一般的な銅導体品と比較して、軽く柔軟な建設用電線を製造。足元のアルミ製建設用電線生産量は、過去最高水準となっている。

施工性・信頼性の高さが市場に浸透してきたことに加えて銅価が乱高下する中、価格が比較的安定しているアルミ製建設用電線の採用により、顧客が工事予算を策定しやすくなるなどの利点にも注目が集まっている。

同社が製造するアルミ製建設用電線「らくらくアルミケーブル」は、昭和電線ホールディングスと古河電工が合弁する建設用電線大手販売会社のSFC Cが販売している。

古河電工産業電線は2022年度に、アルミ製建設用電線を生産量を、前期比で約4倍に拡大したい考えだ。

施工性・信頼性に対する認知の広がりに伴って、リピート発注が増

えるほか、電気工事一案件当たりの使用範囲が拡大するなどして、需要が増えると見ている。

同社では主力製造拠点の一つである平塚工場(神奈川県平塚市)で

